

◆第1分科会「全国盲ろう者の生の声」

来年度から始まる予定の派遣制度事業について説明がありました。
担当は、事務局長山下さんでした。山下さんのお話からまとめた内容

盲ろう者は3つの困難がある
情報、移動、意思疎通

同行援護……都道府県によって違う
盲ろう者向け派遣事業

同行援護を使う場合は、最低でも月50時間が利用できるようにしなければならない。
地域生活支援事業の派遣事業は、各県によって、予算や派遣事業ルールにばらつきがあるので、
全国的なルールを決めていく必要がある。

盲ろう者向け通訳は、同行支援のヘルパーに比べ、熟練が必要だが、報酬単価があがらない。

大阪市は同行援護が月100時間だが、盲ろう者のみ。視覚障害者は月51時間。
市の配慮で増えた。

視覚障害者向けより、盲ろう者向けの同行援護の方が、謝金が高い。

盲ろう者向けの同行援護は、視覚障害者向けの同行援護の手引きとは若干違う。
2倍以上の金額でないとおかしい。

事業の必要性、就業が困難、職務の困難、通訳の専門性を説く必要がある。

同行援護には、30分から1時間未満405単位。

一単位10円

実際は、2000円。4000円だと事業所はやっていける。

1時間半未満が589単位6000円ぐらいが事業所に支払われる必要がある。実際は3000円だが、
6000円だと事業所としてやっていける。

事務所の経費、コーディネート費用も差し引くので、通訳者に支払われる費用は減るため、2倍は
必要。

滋賀県はNPO法人立ち上げた。が、制限時間20時間と決められている。2市のみ延長が認められ
ている。→来年度の盲ろう者向けの同行援護で解決できる見込み。

新しい同行援護の制度では、現在、通訳介助員を使っている人は対象になる。総合支援法では、手帳の基準でなく、障害支援区分の枠組みが基本となる。
視覚障害者の部分については、同行援護基準を使っていく。聴覚障害者については、障害があると認定できれば。

地域にバラツキあるため、国がルールを作ってもらう必要がある。

滋賀では、派遣事業、養成事業、相談事業、現任研修、生活訓練の5事業をやってる。
来年度より同行援護も並行で出来るかどうかという悩みがある。
来年度は委託事業でなく、法人格を持つ団体が事業を実施できることになるという。
厚労省から各県に情報提供がまだ周知されていない。

広島では来年度の事業化を考え、NPO 法人格を取得した。

東京、鳥取、神戸では支援センターが設立された。

盲ろう者の掘り起こしが課題。

◆第2分科会「ふうわと共に心に寄り添いながら」

風船を使って、カーテンを作っていました。楽しそうな雰囲気でした。

「ブース」

・桜井記念博物館

手で触る博物館の出し物が出してありました。ペンギン、サメの顔、歯など並んでありました。
ペンギンを触ってみたら、とてもいい触りで気持ちよかったですよ。桜井記念博物館に行くといいですね。

・藤カゴ販売ブースもありました。

東京都ろう盲者の名取さんが、藤カゴを作っているところを披露していました。

・福岡市の弱視ろう者の大庭龍子さんの手作りのものがたくさん、並んでありました。

とても可愛いものばかりでした。

◆第4分科会「福の島で福をゲット」

さわってわかる福島県
地図模型、招福こけしが置かれてた。
他にパネルも展示されてた。

◆第5分科会「東日本地震災から考える盲ろう者と防災」

体験語り 盲ろう者の講演

内容は、

地域の人と付き合いが大事と言ってる。

目が見えないということもみんな、知ってたので、すごく気を遣ってくれた。

町が失い、うちも失い、今までの状況が変わってしまい、見えなくても感覚で歩けていた地域環境を失い、慣れるまで、外に出るのも時間かかったとのこと。

でも地域ボランティアなど支えてくれたおかげで、今生きる大きな力になったと思う。感謝の気持ちは忘れない。感謝してる。とのこと。

ポイント

自分自身がろう盲であるということを地域の人に知ってもらうことが大事。

たくさんの励まし身の回りの人のつながりとても大事。

自分自身でできることは準備しておく。(災害グッズ)

◆第6分科会「楽しく学んで体験しよう！山形の伝統と文化」

有名な花笠祭りの花笠の手作りをしたり、踊ったりしました。楽しそうな雰囲気でした。

(欠点)

クイズ出してるんだけど、

状況盛り上がってるのに

なんか席の問題だろう。

みんなの顔が見えないので伝えきれないだろう？状況を伝えるのに困難な感じ。

体験の場なので、輪みたいになって、なんか工夫してくれるとよいと思う。

◆「ふうわ交流広場」

ずいぶん離れた場所のために
あまり出入りは少なく、交流の場にするにはもったいない。

◆バリアフリー映画上映

「もうろうをいきる」

それぞれのろう盲者の生活、気持ちなどのドキュメントでした。
全国にも上映されるとのことで反応はどこまで？

心配なところ

ろう盲者と盲ろう者の区別の理解どこまで伝わるのできるのだろうか？

あるろう盲者の発言には、響いた。

それは、聞こえた方がいいと言われたことでした。

理由は、やはり、手話通訳体制の問題だから。

もう1人のろう盲者

家族みんな死なれて、1人暮らし。

ヘルパーを使ってるけれども、コミュニケーションは、手書きでした。

本人は、手話で話すのに。。。。

そういう問題が山ありだなって感じました。

◆全体的感じたこと。

3日間、色々分科会を見てきました。

全体的をみると手話通訳体制は、あまりよくなかった。

パソコン要約があまり良くない。

お話全部が伝えきれず、ほとんど省いてしまう場面が多い。

となると情報が半分以下に。

手話通訳者も表現が小さすぎ。

ろう者通訳さんたちにとっては、ダメージが大きい。

ろう盲者に伝えるのもますますの情報が少なくなってしまう。

もっと充実した情報保障をしなければならない。

それぞれの友の会の力を入れてるところそうでもないところの差が大きい。

分科会の内容

もうちょっと工夫が必要。

全国から集まるろう盲者たちの交流する場がないこと。

夜に交流の場はあるけれども、ろう盲者たちの疲労は目に見えてるので、やはり、午後の時間に設けたら1番いいのではないだろうか？

お互いの情報交換、音痴同じ気持ちを持つ同士なのだから。

その機会を与えてやるのはどうだろうか？

と感じた。(交流の場というのは、

分科会を午前。午後は、交流の場を設ける)

来年度の盲ろう者の大きなイベントのお知らせ

・オーストラリアからのろう盲者が、発表がありました。

第17回盲ろう者国際世界会議

2019年8/12-16

オーストラリア、ゴールドコーストで行うとのこと。

通訳介助については、自分で用意して連れてくるようにと言っていた。

・2019年9/1から9/3

第27回全国盲ろう者大会

千葉県幕張メッセで行うことに決まる。